

評価指標に着目した地方自治体の行政評価システムの分析

徳島大学大学院 学生員 ○山本 哲
徳島大学工学部 正会員 山口 行一
徳島大学工学部 正会員 山中 英生

1. はじめに

近年、政策の質の向上と、アカウンタビリティの確保のために、先進的な自治体で行政評価システムが導入されつつある。しかし、行政の成果を表すため指標をいかに測定・評価するか、評価結果を計画や予算にどのように反映させるか、といった点で未だ議論が続いているのが現状となっている。

本研究は、三重県で運用されている事務事業評価システムを題材に、政策体系に沿って設定された評価指標の特徴と上下政策レベルの関連性を明らかにし、さらに評価結果と予算との関係を分析することで評価のフィードバックの考え方を明らかにすることを目的としている。

2. 分析対象

図1は三重県の総合計画の政策体系を示したものである。三重県では、行政運営を除く5本の「政策展開の基本方向」を頂点として、その下位に20本の「政策」、67本の「施策」、490本の「基本事務事業」、3120本の「事務事業」からなる政策の体系が設定されている。今回の分析対象は基本事務事業448指標と政策展開の基本方向V「多様な交流・連携を通じ、個性と魅力のある地域を育てるために」の事務事業503指標の成果指標と予算額とした。基本事務事業では平成9年度から平成11年度分、事務事業では平成8年度から平成10年度分を分析に用いた。

3. 評価指標形式の分類

基本事務事業で用いられている評価指標について、表1の評価指標形式に分類をし、結果を図2に示す。充足度型が66.7%を占め最も多くなっていることがわかる。これは社会的ニーズを充足させるという目標が行政に受け入れやすいためと考えられる。

評価指標の体系での政策レベルの上下の

キーワード：行政評価、評価指標、予算配分

連絡先：〒770-0814 徳島市南常三島 2-1 TEL 088-656-7578 FAX 088-656-7579

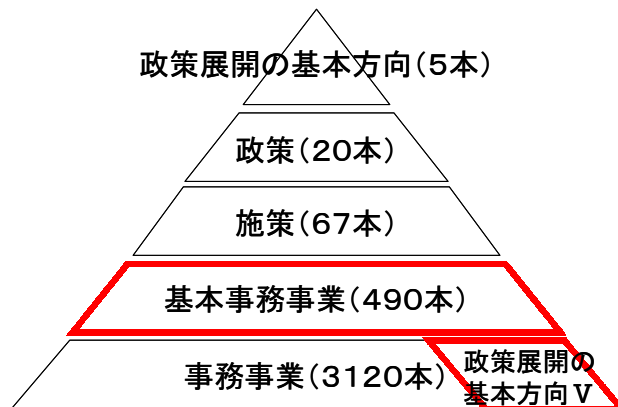


図1 三重県の総合計画の政策体系

表1 評価指標形式の分類

評価指標形式	定義
充足度型	ある事業が社会のニーズに対して十分満たした比率
目標達成度型	ある事業の目標値に対する現在の整備水準
度数型	物事が起こったり行われたりする回数などを表す指標
単位あたり度数型	一人あたりや一回あたりなどの度数を表す指標
ランキング型	順位を取り入れた指標
評点型	作業の進捗状況などを点数化した指標

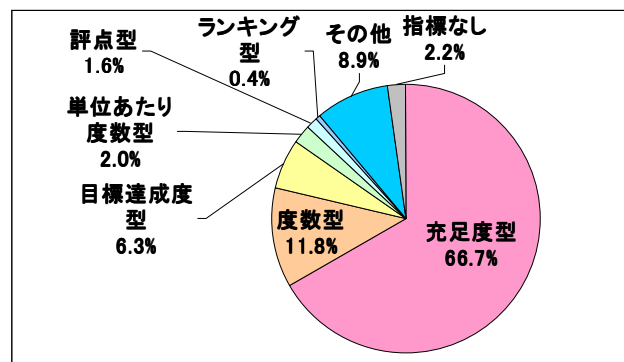


図2 評価指標形式の分類結果

表2 総括型、代表型、複合型の定義（A,B,C,D：成果指標）

	総括型	代表型	複合型
基本事務事業	D	A	A+B
事務事業	A B C	A B C	A B C

関係を明らかにするために、表2に示すように3つのタイプに分類した。総括型は基本事務事業の成果指標が下位の事務事業の成果指標を総括した形で別の成果指標を用いているもの、代表型は基本事務事業の成果指標が下位の事務事業の成果指標を代表した形で、その内の一つを用いているもの、複合型は基本事務事業の成果指標が、下位の事務事業の複数の成果指標を結合して用いているものである。その結果、図3に示すように、総括型が60.7%と最も多く、次に代表型が多いことがわかった。このような総括型の場合は、上下の指標に十分に関連性があるかが問題となる。実際にこの関係を見た所、上位施策での指標の変化と下位施策群の指標の平均的な変化の方向が一致しない事務事業が52事業中10事業程度存在していることがわかった。

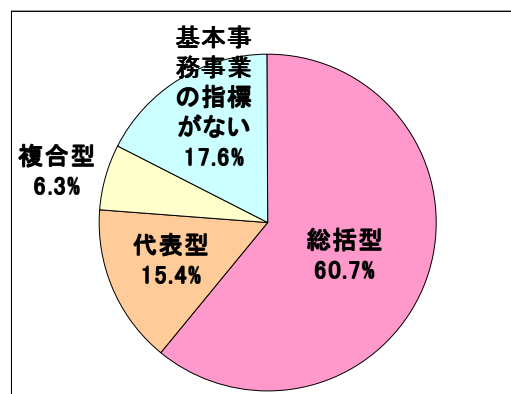


図3 総括型、代表型、複合型の分類結果

4. 評価指標値と予算額の関係

それぞれの事業の評価結果と予算との関係を分析した。評価指標によって形式、内容が異なるため単純比較ができないため、ここでは評価指標を表3で定義するフロー型、ストック型に分類し、図4に示す計算方法で、評価指標値と予算額の対前年度比を用いて比較する。

表3 フロー型、ストック型成果指標の定義

評価指標内容	定義
フロー型成果指標	成果指標が単年度で設定されている指標
ストック型成果指標	年度末の社会的な状態を表す指標

図5は各事業の予算額と成果指標値との関係を示している。各軸の1を境界とすると、それぞれのゾーンは問題事業、縮小事業、重点事業、効率性事業と解釈できることになる。その結果、予算上は伸びを示しているのに成果の伸びが見られない問題事業はフロー型、ストック型それぞれに6事業と18事業あることが指摘できる。

フロー型成果指標	ストック型成果指標
$\frac{E_{t+2}}{E_{t+1}} \approx \frac{I_{t+2}}{I_{t+1}}$	$\frac{E_{t+2}/E_{t+1}}{E_{t+1}/E_t} \approx \frac{I_{t+2}}{I_{t+1}}$
E：成果指標値、I：予算額 t：年次（平成9年度）	

図4 評価指標値と予算額の対前年度比の計算方法

5. おわりに

三重県の行政評価システムを題材に分析を行ったところ、以下の結果が得られた。運用されている評価指標を指標形式で分類すると、充足度型が多いことがわかった。評価指標の上下政策レベルの連携は、総括型が多く用いられていることがわかった。また、3年分の成果指標値と予算額のデータを用いることで、問題事業が発見でき、以後の検討に生かすことができることがわかった。今後は、三重県の行政評価システムの全事業で分析を行い、政策レベルの上下の関連性について見ていきたいと考えている。なお資料提供には、三重県政策評価推進課に協力を得た。感謝の意を表する。

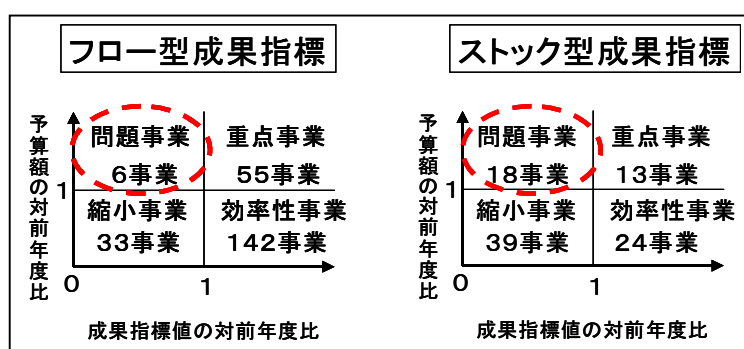


図5 評価指標値と予算額の関係

参考文献 1) 上山信一(1998)「行政評価の時代」NTT 出版株式会社

2) 三重県(1999)「事務事業目的評価表の公表」について

<http://www.pref.mie.jp/seihyo/plan/jimu/index1.htm>